

ボランティア通信



上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)

Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer-co@sophia.ac.jp

Twitter : @SophiaVolante

LINE@ : (登録時に希望する配信内容「ボランティアについて」のチェックを入れてください)

※「ボランティア」とはポルトガル語の舵取りという言葉から、学生の皆さんのボランティア活動と社会を繋ぐ役を果たしたいという意味が込められています。



上智大学ボランティア・ビューロー (ボランティア)

SOPHIA VOLUNTEER BUREAU

令和2年7月豪雨災害義援金募金のご案内

7月3日以降、九州や中国地方をはじめ全国各地で断続的に大雨が続き、この影響で大きな河川の氾濫、浸水被害、土砂災害等深刻な被害が発生しました。被害を受けた方々に心よりお見舞い申し上げます。

今回は感染拡大防止という観点から被災地外からの災害ボランティアによる支援にも慎重な判断が求められます。今の状況においては、募金をさせて頂く事で、少しでも被災した方々の支えとなることを望んでいます。

本学とパートナーシップを締結している日本赤十字社が7月7日から「令和2年7月豪雨災害義援金」窓口を開設しています。ゆうちょ銀行窓口で手続きをする場合は振込手数料は無料です。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。詳しくは、こちらの日本赤十字社ホームページ 令和2年7月豪雨災害義援金のページをご参照ください。



<http://www.jrc.or.jp/contribute/help/20200207/>

「過疎地での暮らしを通じて、復興と日本の未来を思い描く」リモート企画プロジェクトチーム参加者募集について【8/24締切】

2017年度から宮城県南三陸町にて1泊2日で行っていたツアー企画を2020年度はリモート形式で実施する事を検討しています。

震災からの復興と過疎化により発生する問題を日本が将来抱える問題と捉え、解決の方策を考える企画です。ボランティア・ビューローと共に、現地にいかずともオンライン等で実施する企画・運営に参加してくれる学生を募集します。

震災からの復興・過疎化による問題の解決とは？これらの学びが得られるプログラムを作成・運営してください。活動に様々な制限がある中でも、チーム全体で知恵を出し合って、新たな企画を作り上げるプロジェクトにぜひ参加してみませんか？

参加申し込み締め切りは8月24日(月)です。
詳しくはLoyola掲示板(ボランティア)をご確認ください。



新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ボランティア系の課外活動団体は、多くの活動を控えています。人々との直接の交流を主な活動としていた中で、学生達はどのような思いや課題を持っているのか？その実情を調査しました。団体を取り入れた新たな活動方式や今後の活動への思いを紹介します！

今回のコロナの影響により、団体の活動や運営で困っている事(アンケート回答より)

活動について

- ・活動の見通しが立たない点(計画が計画倒れになったり、延期されたりすることによってどうしたら良いか判断するのが難しい。)
- ・やはり活動がないこと。1月以降、メンバーと会えていないので、寂しい。
- ・支援物資の回収・仕分けができていない
- ・子どもたちとの直接の交流ができていない。子どもたちのオンライン整備が進んでいないためオンラインの交流会も回数や人数が限られてしまう
- ・キャンパス内での活動ができない事への不便さ
上智生、上智の先生にアプローチするという本来の目的がなかなか叶わない。
バザーなどでの収益金での寄付が活動において不可欠だったのでそれができない。
- ・メインの活動が3密ありきで成り立っているため、簡単に代替案が出せない点が困りました。
生活に密着した活動内容のため、コロナが本格的に収束しない限り、今までと同じクオリティーのボランティア活動は難しいと推測されるので、その点も困っています。

新入生の勧誘

思うようにできず、入部希望者がなかなか現れない。

次年度への引継ぎ

- ・活動を通して引き継ぐ事ができない。
- ・受け入れ団体との人間関係の継承ができない。受け入れ団体との面識がないまま、活動するのはかわいそう。

部員同士のコミュニケーション

各自のオンライン環境が異なるなかで、サークル員みな参加出来る形での活動を模索することに難しさを感じる。また、皆が参加出来るLINE上の話し合いでは十分に伝えきれないことや話し合いを深められないことがあり対面出来ない状況、スムーズに意思疎通ができない状態に不便を感じる。

その他

オンライン授業で履修科目が多く、課題に追われている部員や入部検討者が参加しやすいようにすることについても検討していかなければいけない。

このような課題を持つ仲間同士、今後の団体の運営や活動へのヒントを得ることを目的に、7月30日に情報交換会をオンラインで開催しました。その模様は次ページに続きます。



ボランティア通信



上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)

Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer-co@sophia.ac.jp

Twitter : @SophiaVolante

LINE@ : (登録時に希望する配信内容「ボランティアについて」のチェックを入れてください)



上智大学ボランティア・ビューロー (ボランティア)

SOPHIA VOLUNTEER BUREAU

ボランティア系サークル情報交換会 (7月30日開催)

新型コロナの影響により、団体それぞれが感じている戸惑いや課題、模索している新しい活動様式などについて情報交換する会を7月30日にオンラインで開催しました。

当日は、2グループに分かれ、個々の課題→解決策(今後の目標)を出し合い、デジタルホワイトボードの付箋にメモをして、内容を整理しました。

- ・オンライン授業による多忙・疲れにより、サークルに関わる事がどのくらい難しいのか？
- ・個々の事情や、活動に関する意見の確認をオンラインですることが難しいことにどう対処するか？
- ・これまではMtg参加に付随する帰り道での雑談や仲間内での食事会など、様々なきっかけがあったが、そのようなひと時もない中でのオンライン参加は、モチベーションや楽しみがないと続かない。
- 任意参加の交流会や、会の冒頭のアイスブレイクで、「もっと話したい」というきっかけ作りが重要。
- オンライン以外で部員に個別に意見や気持ちを聞くことも大切。などの解決策が出ました。

～会を振り返った感想～

- ・時間が足りなかった。次回はテーマを一つに絞り、そのテーマの資料を先に配布する。出席者の所属する団体のプロフィールなども先に配布しておく、より話し合いに集中した時間が確保できる。
- ・夏休み中などの開催であれば、より多くの参加が見込めると思う。
- ・皆と同じ悩みを共有できて「うちだけではない」と勇気つけられた。

参加してくれたドンキホーテ、Sophia Volunteer Network、Speak Up Sophia、上智大学手話サークルでのひら、僕らの夏休みProject、ボランティアぷらっとほーむの皆さん、ありがとうございました！

ボランティア系サークルにおける新しい活動様式、変わらぬ思い・・・

調査に回答してくれた団体を取り入れた新しい活動様式や、これまでと変わらない思いを紹介します。

「めぐこ」ーアジアの子どもたちの自立を支える会ー 創立45年を迎えました！

オンラインで総会を開き、OB OGの方々にも参加していただき、活動報告を行った。

今年度の「めぐこ」の活動は、新型コロナウイルス感染症のため大きく制限される形となりましたが、これまでの活動を見直し、新たな活動方法を模索する良い機会となりました。「めぐこ」の活動が、インドとフィリピンの子どもの成長につながっていることを祈りつつ、「めぐこ」も成長を続けていこうと思います。

→ 本来であれば夏季休業中は、活動のメインであるフィリピンスタディーツアーが開催され、そのための準備や報告を行っていた。今年度は、フィリピンの支援先である施設の勉強会をオンラインで開催することを予定している。



上智大学ローバース

ZOOM、LINE通話での実施。すべてオンラインでメンバー同士の近況報告・今後の活動や引継ぎについての相談を行っている。
飲食・宿泊を伴う活動ができず、また実際に各奉仕活動を見送ったりしているが、今後はオンラインという新形を模索していく。



MLT子どもプロジェクト

コロナ禍で活動できていませんが、子どもたちのために何かできることはないか、一人ひとりが考えて新しい支援を模索しています。

Speak Up Sophia

状況は変わりましたが、SNSを日頃から使っていたことであまり支障は感じませんでした。業務の見直しにもなったと思います。普段よりもメンバー同士の関係性を重視したり、新入生などに対するインクルーシブな組織運営を心がけるようになったのはとてもいい変化だと思います。インカメンバーや卒業生も巻き込んだ活動はオンラインならではです。反対に困ったのは、やはり学内での訴求力が減ったことです。これは秋の課題として腰を据えて考えたいと思います。

わかたけサークル

障がいのある子どもたちとの交流なので、活動における感染症のリスクや心配は極めて大きく、当分対面での活動は難しいと考えています。東日本大震災の時に数か月活動が出来なかった際も、各家庭に手紙や電話で連絡を取ったという話を先輩から聞きました。子どもとの交流がゼロになることが無いように、サークル員で今できることを精一杯やっていこうと思います。

ボランティア通信



上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)

Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer-co@sophia.ac.jp

Twitter : @SophiaVolante

LINE@ : (登録時に希望する配信内容「ボランティアについて」のチェックを入れてください)



上智大学ボランティア・ビューロー (ボランティア)
SOPHIA VOLUNTEER BUREAU

上智大学手話サークルでのひら

新型コロナウイルスに罹患された皆さま、関係者の皆さまにお見舞い申し上げます。コロナ禍においてこれまで通りの活動は出来なくなってしまいましたが、今何が出来るかを検討し少しずつ動きだしています。

活動からは少し離れますが、コロナ禍において聞こえない人の置かれた状況や手話について報道などで取り上げられることが多くなり、聞こえないことや手話、コミュニケーションについて考える機会があったのではないかと思います。手話を学ぶということもまた、聞こえないことについて考える、各々にとって出来ることを考える一つのきっかけになるのではないかと思います。このような状況だからこそ、サークル内でも手話コミュニケーションや聞こえないことについて身近なこととしてそれぞれが考えることができればよいと思っています。

Odds

- ・コロナの影響で子供たちと直接接することもできず、サークルのメンバーと集まるのも難しい状況ですが、レシピの送り先の子供たちからとても好評で私たちもやりがいを感じています😊
- ・少しでも多くの子どもたちと触れ合うことで、私たち自身も得られるものが多く、このような状況の中ですが、今、子どもたちにしてあげられる事は何か、自分たちの過去と照らし合わせながら考えています。
- ・コロナで活動中止となり、みなさんに会えなくて寂しいです。大変な時期ですが、みんなで乗り越えていきましょう！また会えることを楽しみにしています！

Enpentas

オンライン活用で色んな可能性が広がったと思います。様々な活動の在り方やこの状況を逆手にとって活動の深みが増したらいいなと思います。

- ・子どもたちとの交流も直接だけでなくオンラインの活用により、色々な関わりをこれからできればと思います。



ドンキホーテ

児童館や小学校などで実際に子供と関わる活動の休止により、次年度への引継ぎを今後どう行おうか困っているが、オンライン会議などできる限りの引継ぎをしたいです。

Sophia Volunteer Network

SVNは東日本大震災をきっかけに誕生したサークルとして、岩手での復興支援をはじめ、現在では震災のあった熊本での災害ボランティアや大学での防災啓発など多岐にわたって活動しています。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、岩手や熊本での活動が実施できていない状況です。災害ボランティア活動はその性質上、現地に赴くことや相手の方と接することが必須のことであり、決してオンラインでの代用が容易な活動ではないと感じています。もっとも、私たちボランティア活動団体も、これまでの発想にとらわれずに、「新しい活動様式」を模索していかなければならない時期に差し掛かっているのかもしれない。

「災害」ともいえるほどの猛威を振っている新型コロナウイルスは、私たちや受け入れをしてくださっている現地団体にとって、そして共に掲げる「復興」という大きな目標にとっての障壁だと感じてしまいます。しかし同時に、今は会えないけれども、活動を通じて多くのボランティア関係者の人々との出会い、そして志を共にするサークルメンバーと一緒に、この大きな目標に向かって歩んできたということを再認識することとなりました。一人ひとりでは微力でも、1+1を3や4にして、活動をしてきたのです。

SVNは、前述の通り、大学での防災啓発活動をしています。今年は昨年までと異なり、避難所でのコロナウイルス対策などを扱い、また、オンラインも積極的に活用しながらイベントを行う予定です。制約のある中、今までにない「新しい活動様式」を提案できればと思っています。



僕らの夏休みProject

岩手県の小学生との交流を中心に活動してきたため、例年より厳しい状況ですが、夏企画と同じ楽しさを子どもたちと味わえるような企画を考えています🍃 最高なものになるように新しく入部してくれた新入生とともに、全員で邁進していきます。



Habitat for Humanity

このような状況の中普段の活動が出来ず残念ですが、あたりまえだと思っていたことがいかに素晴らしいことだったかを学ぶ経験にはなりました。このパンデミックが終わった暁には、今まで以上に活動に励んでいきたいと思えます。

学習支援 STEP UP !

子どもたちの、一生懸命に勉強する姿や学校や家での出来事を楽しそうに話してくれる様子に非常に元気づけられています。引き続きオンラインでの指導となりますが、頑張っていきたいです！



CeeK

カンボジア渡航は中止になってしまいましたが、「できないこと」に目を向けるのではなく、「できること」に目を向けて部員みんなで一生懸命頑張っています。オンラインミーティングをキッカケに会議の形を改善したり、新たなことへの挑戦を試みようとしていたりしています。

Summer teaching Program

例年と異なり、新入生を向かい入れられないことがとても残念ですが、今だからできる活動を考えていきたいと思えます。

Teraco

コロナ渦で、大学に生徒を呼び対面授業という活動はできなかったがオンライン授業を実施することができ、新しい形を見つけることができた。自由な時間に活動できる点を得てよかったと思う。

これまでは団体のメンバーにとって「居場所」という感覚であったサークル活動が、対面で集合できないことで、その感覚は薄れてきているという感想も聞こえます。元気に皆さんが会える日が来るように、今の状況はまだ辛いことも事実ですが、状況の変化に適した活動や団体運営に挑むことで、一緒に前進していきましょう！

夏のリモートボランティア2020

この夏は自宅からリモートボランティアに参加してみませんか？
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センターの特設サイト

<https://www.tvac.or.jp/>
<https://www.tvac.or.jp/special/rimobora> から検索できます。

この機会にオンラインでの講座もチャレンジしてみましょう。社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会 ちよだボランティアセンターでもオンラインでの講座や講演会を提供されています。参加は多くが無料開催です。

<https://www.chiyoda-vc.com/event>

以上のサイトの情報は更新されますので、夏以降も活用してみてください。

オンラインを通しての交流や、これまでできなかった活動を通して様々な気づきを得る事ができるはずです。



ボランティアぷらっとほーむメンバー大募集！

“ボランティアぷらっとほーむ”とは、各ボランティアサークルの横の繋がりを強めることを目的とした学生の有志団体です。
彼ら自身がボランティア活動を行うのではなく、上智大学のボランティア活動の活性化を目指し、ボランティア・ビューロー（学生センター内）と共に、ボランティア活動をする学生たちの後方支援となる様々な活動（情報発信、交流の場の提供等）を行っています。



2019年度の主な活動

- ・ボランティアサークル説明会
- ・Talk～面白い悩みがあふれてる～
団体運営の悩みをどう解決するか？横のつながりで解決を目指す！
- ・オープンキャンパスでのボランティア団体紹介・クイズ大会やパネルディスカッションを企画・運営・司会も！
ボランティア系課外活動団体の紹介冊子の編集
- ・ボランティア団体の活動写真展

メンバー随時募集中です！

企画の提案・交渉・実施などに挑戦したい方は、ぜひお気軽に連絡してください！
新入生・在校生大歓迎です。

Twitter @Sophia_VoPla

E-mail :
volunteer.platform.Sophia@gmail.com

